

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年6月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0971000252		
法人名	特定非営利活動法人にちにちそう		
事業所名	グループホームにちにちそう		
所在地	栃木県大田原市富士見1-1604-45 (電話) 0287-20-1116		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年4月25日	評価確定日	平成20年6月6日

【情報提供票より】(平成20年4月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤5人, 非常勤3人, 常勤換算5.0人	

(2) 建物概要

建物構造	木造
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,000円~40,000円	その他の経費(月額)	・光熱水費—12,500円 ・日用品・教養娯楽費—200円/日 ・理美容代、おむつ代、嗜好品—実費
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	—
食材料費	朝食	250 円	昼食 400 円
	夕食	350 円	おやつ (食事代に含む)
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成20年4月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	3 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	1 名	要支援2	名
年齢	平均 84.6 歳	最低 75 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ダイナリハビリクリニック、小倉歯科、赤羽医院
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは改築型ということもあり、外観、内装ともに「普通の」家の雰囲気を有している。昨年、垣根を伐採したことで見通しが良くなり、地域との心理的な距離感が縮まったという副次的効果もでている。入居者会議を月1回開催しており、外出の行き先や入居者目標を決めるなど、入居者主体の生活づくりに努めている。職員は明るく、穏やかに入居者に接しており、ホームではゆったりとした時間が流れていた。ホームの広報誌である「にちにち通信」では、入居者の様子のほかにも新しい職員の紹介、クイズ、また「グループホームとは」という連載で認知症ケアの啓発も行っており、家族のほかにも回覧版で地域の方にも見てもらっている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、職員会議で話し合ったりしている。地震の際の安全性を考えてリビングにあった背の高い食器棚の配置を変えたことで部屋の開放感も増している。職員の休憩室の整備もしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は職員に評価票に目を通して意見を出してもらい管理者がまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者家族、自治会長、民生委員、市及び地域包括支援センターの職員に参加してもらい、利用状況を報告し、意見や助言をもらい運営に活かしている。運営推進会議の議事録は市に提出している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問の際や電話で報告をするほか、請求書の送付時に写真を添えて生活状況を報告している。その他に生活の様子や年度の目標、職員の異動などを掲載した「にちにち通信」を定期的に発行し送付している。預かり金は出納帳を作成し、家族に確認してもらっている。重要事項説明書にホーム及び市の苦情窓口を明記し、玄関に意見箱を置いている。苦情があった時には市にも相談し、誠心誠意対応している。家族が気軽に意見、要望等を職員に言えるような雰囲気づくりに努め、意見等があった時は連絡ノートを活用しながら職員間で共有し、話し合い、改善に努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会には加入していないが、広報誌を回覧版で回してもらったり、ホーム行事(餅つき、花火など)に参加を呼びかけながら地域の方々との交流に努めている。垣根を伐採したことで見通しがよくなり、副次効果としてより開かれた雰囲気にもなった。近くの公園に出掛けて日常的に地域の方と交流する機会もつくっている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域生活を支えることを根底においた法人理念、入居者及び家族への支援のあり方を謳ったホームの運営方針がある。その他に「明るく元気に暮らしましょう」「自分で出来ることは自分で」という入居者目標、「ゆとり、優しさ、思いやり」という職員目標をつくっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員間で話し合っ毎年度職員目標をつくり、また入居者と一緒に入居者目標をつくっている。朝のミーティングや月1回の職員会議などで話し合い、情報共有をしながら理念の実践に努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会には加入していないが、広報誌を回覧版で回してもらったり、ホーム行事（餅つき、花火など）に参加を呼びかけながら地域の方々との交流に努めている。垣根を伐採したことで見通しがよくなり、副次効果としてより開かれた雰囲気にもなった。近くの公園に出掛けて日常的に地域の方と交流する機会もつくっている。	○	法人の成り立ちからも地域での生活を支えることを大切にしており、ホームも施設ではなく「アパート」としての感覚で捉えている。今後も自然な形で地域に溶け込んでいくこと、入居者の地域生活を充実させていくことに期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議にも報告し、職員会議で話し合ったりしている。地震の際の安全性を考えてリビングにあった背の高い食器棚の配置を変えたことで部屋の開放感も増している。職員の休憩室の整備もしている。今回の自己評価は職員に評価票に目を通して意見を出してもらい管理者がまとめた。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者家族、自治会長、民生委員、市及び地域包括支援センターの職員に参加してもらい、利用状況を報告し、意見や助言をもらい運営に活かしている。運営推進会議の議事録は市に提出している。	○	運営推進会議では、会議の参加者について検討してみてはどうか、という助言ももらっているので、今後更に運営推進会議をホームの質の向上に活かしていくことを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業者連絡協議会やケアマネジャー連絡協議会などに参加するとともに、市との連携にも努めている。入居申し込みについて市から相談を受けたり、ホームの前の坂道の凍結について市に相談したりといった関係ができています。市の介護相談員派遣事業も利用している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際や電話で報告をするほか、請求書の送付時に写真を添えて生活状況を報告している。その他に生活の様子や年度の目標、職員の異動などを掲載した「にちち通信」を定期的に発行し送付している。預かり金は出納帳を作成し、家族に確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム及び市の苦情窓口を明記し、玄関に意見箱を置いている。苦情があった時には市にも相談し、誠心誠意対応している。家族が気軽に意見、要望等を職員に言えるような雰囲気づくりに努め、意見等があった時は連絡ノートを活用しながら職員間で共有し、話し合い、改善に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、なるべく同じ職員が関わることを大切に考えている。異動や離職がある時には新しく職員になる方に異動、入職前に何度かホームに来てもらうなど入居者への影響を防ぐ配慮をしている。職員の休憩室を整備するなど職員のストレス軽減にも配慮している。		

グループホームにちにしそ

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の職員会議の際に「緊急時対応について」などのテーマを設定して勉強会を行っている。認知症介護実践研修などは交替で受講している。外部研修に参加した時は報告書を作成し、職員間での共有に努めている。管理者は、定期的に職員の個人面談も実施している。社会福祉主事資格取得についての法人支援がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入し、また、市の事業所連絡協議会に参加するなどして同業者との交流に努めている。相談ごとなどをできる市内の同業者もいる。	○	同業者との交流のもと、職員間の研修や入居者同士の交流なども検討しているので、その実現を期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居申し込みがあった時は、本人を訪問し、また必ずホームに来てもらいホームの雰囲気を覚えてもらうようにしている。家族に居室の環境づくりの協力を依頼している。入居後は入居者間の関係づくりに気をつけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	1か月に1回入居者会議を開き、外出先を話し合ったり、入居者目標を決めたりと入居者主体の生活づくりを大切にしている。今年度の入居者目標に「自分で出来ることは自分で」とあり、家事など職員がサポートしながら行っている。入居者から習わしごとを聞き、まんじゅうづくりをしたりもしている。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員の受け持ち制を取り入れ、本人が困っていることや希望などを把握できるよう努めている。昨年度からセンター方式のアセスメントを一部取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	サービス担当者会議には家族にも参加してもらい、本人や家族の希望にそった介護計画の作成に努めている。計画作成担当者（兼管理者）、担当者で相談しながら個別支援方法を検討し、カンファレンスなどを行いながら、一人ひとりにあった計画、支援に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行いながら、6か月を目安に定期的な見直しをしている。入居者の状態に変化があった時などは随時見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況によって通院支援をしたり、入居者の要望にそって墓参りに出かけたりと柔軟な支援に努めている。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は基本的に家族の対応になっているが、状況によっては職員が付き添うこともある。2週間に1回、かかりつけ医に往診してもらう方もいる。管理者は看護師資格を持っており、必要に応じて医師に相談しながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしてできること・できないことを踏まえて本人・家族の希望を聞き、医師や家族との連携、職員体制の検討をしながら対応することとしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者との生活が長くなっても馴れることなく、人生の先輩として敬うことを大切にしている。同性介助など誇りやプライバシーに配慮しながら支援している。記録は事務室の書庫に保管している。地域にも回覧する広報誌への入居者の写真の掲載について意向を確認し、同意をもらっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日のおおまかな流れは決まっているが、入居者の希望にそって柔軟な支援ができるよう努めている。訪問日も入居者それぞれのペースで過ごしており、職員が慌ただしく動いたりする姿も見られなかった。入居者会議など入居者が選ぶ、決める場面づくりもしている。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物を聞きながら入居者と一緒にメニューをつくっている。入居者のできることに配慮しながら、下ごしらえや食器拭きなどを一緒に行っている。必要に応じて入居者をサポートしながら、職員も入居者と一緒と同じものを食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	13:30～16:30、場合によっては19:00～20:00の時間帯で30分程度ゆったりと入浴できるよう支援している。入浴の順番が公平になるように挨拶当番の方が一番風呂にするなどの配慮もしている。ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じながら入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むきや食器拭き、洗濯物干し・たたみ、畑仕事、花の世話などの出番をつくったり、職員が一緒に行ったりしている。食事の際の挨拶などは当番制にしている。紙細工、おかしづくり、ドライブなどの楽しみごと、気晴らしの機会をつくっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの日常的な外出のほか、花見などの行事的な外出、ドライブの機会をつくっている。近くに公園があり、天気の良い日などは公園に出掛けて行って食事をしてもらうこともある。墓参りや自宅に出掛けたりといった個別の要望による外出の支援も行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にチャイムはあるが、職員の見守りのもと、鍵をかけないケアを実践している。		

グループホームにちちちそう

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火事、地震、急変、事故、不審者、行方不明者などのケースを想定し、日中・夜間に分けて対応マニュアルをまとめている。年2回避難訓練を実施している。隣のアパートの大家さんに協力を依頼し、アパートの駐車場を避難場所として確保している。	○	いざという時のために、今後も継続的に訓練を実施していくことを期待したい。また、消防署などが開催する救命救急講習などに全職員が参加することも考えているので、実現に期待したい。備蓄の検討や地域の方との合同での訓練実施など、体制を充実させていくことにも期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の食べたい物を取り入れながら一緒にメニューをつくっている。同法人の小規模多機能型居宅介護事業所の栄養士のアドバイスも受けている。医師に相談して補助的に栄養剤を用いるなど、食事・水分の摂取が適切にできるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改築型ということもあり、全体的に家庭的な雰囲気のある空間になっている。リビングの食器棚を移動したことで、より明るく、開放感のある空間になった。職員の声なども含めて音の大きさなども適切に配慮されている。室内に気になる空気の日どみ等もなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に安心感のためにも馴染みの物を持ってきてもらうようにしている。コタツや座イス、テレビ、茶ダンス、扇風機などを持ち込み、入居者それぞれの部屋づくりをしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。